

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成25年12月5日(2013.12.5)

【公開番号】特開2012-90013(P2012-90013A)

【公開日】平成24年5月10日(2012.5.10)

【年通号数】公開・登録公報2012-018

【出願番号】特願2010-233950(P2010-233950)

【国際特許分類】

H 04 J 11/00 (2006.01)

H 04 J 99/00 (2009.01)

【F I】

H 04 J 11/00 Z

H 04 J 15/00

【手続補正書】

【提出日】平成25年10月17日(2013.10.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

データを無線受信装置に送信する際、周波数領域信号の一部のスペクトルを送信しないクリッピング処理を行なう無線送信装置であって、

前記無線受信装置から通知される、前記無線受信装置に対する伝送に用いる割当無線リソースの帯域幅、MCS (Modulation and Coding Scheme)、あるいはランク (Rank) を示す制御情報を用いて、前記クリッピング処理の対象とする周波数帯域を決定することを特徴とする無線送信装置。

【請求項2】

前記クリッピング処理の対象とする周波数帯域を決定するために用いられる制御情報の少なくとも1つは、割当無線リソースの帯域幅を示す情報であることを特徴とする請求項1記載の無線送信装置。

【請求項3】

前記クリッピング処理の対象とする周波数帯域を、割当無線リソース帯域幅とクリッピング処理の対象とする周波数帯域幅とが対応付けられたテーブルに基づいて決定することを特徴とする請求項2記載の無線送信装置。

【請求項4】

前記クリッピング処理の対象とする周波数帯域を、前記無線受信装置との間で予め定められたクリッピング率に基づいて決定することを特徴とする請求項2記載の無線送信装置。

【請求項5】

時間領域の信号を周波数領域の信号に変換した後、前記クリッピング処理を行なう場合

前記周波数領域の信号のDFT (Discrete Fourier Transform) サイズを、割当無線リソース帯域幅とクリッピング処理の対象とする周波数帯域幅とに基づいて決定することを特徴とする請求項2記載の無線送信装置。

【請求項6】

前記通知される制御情報の少なくとも1つは、前記無線受信装置に対する伝送に適用す

る M C S (Modulation and Coding Scheme) であることを特徴とする請求項 1 記載の無線送信装置。

【請求項 7】

データを無線受信装置に送信する際、周波数領域信号の一部のスペクトルを送信しないクリッピング処理と、

前記無線受信装置から通知される、前記無線受信装置に対する伝送に用いる割当無線リソースの帯域幅、M C S (Modulation and Coding Scheme) 、あるいはランク (Rank) を示す制御情報を用いて、前記クリッピング処理の対象とする周波数帯域を決定する処理と、の一連の処理を、コンピュータに読み取り可能および実行可能にコマンド化したことを持つ無線送信装置の制御プログラム。

【請求項 8】

無線送信装置に実装されることにより、前記無線送信装置に複数の機能を発揮させる集積回路であって、

データを無線受信装置に送信する機能と、

周波数領域信号の一部のスペクトルを送信しないクリッピング処理を行なう機能と、

前記無線受信装置から通知される、前記無線受信装置に対する伝送に用いる割当無線リソースの帯域幅、M C S (Modulation and Coding Scheme) 、あるいはランク (Rank) を示す制御情報を用いて、前記クリッピング処理の対象とする周波数帯域を決定する機能と、の一連の機能を、前記無線送信装置に発揮させることを特徴とする集積回路。